



佐世保市立吉井中学校

校訓：「耕心」

所在地：佐世保市吉井町前岳3番地2

校長名：松山 弥六

生徒数：152名（8学級）

1 特色ある学校づくりに対する基本姿勢

校訓である「耕心」の精神のもと、教師と生徒、生徒同士、教師同士の心のふれあいと切磋琢磨を大切にしながら、

- (1) 生徒自身が「友達が好き、学級が好き、学校が好き」と感じることを。
- (2) 「生徒一人一人の夢や志をはぐくむ」こと。
- (3) お互いの存在を「認め合い」、お互いが「切磋琢磨」しながら自分自身を高め、将来に向かって前向きに進んでいくこと。

を目指す。その具現化のために、『伸ばそう 学力』『鍛えよう 心と体』『語ろう 夢や志』をテーマとして、特色ある学校づくりを推進し、実践した。



2 実践内容

(1) 伸ばそう 学力

①授業改善のために

「授業のユニバーサルデザイン化」のツールとして「スクールタイマー」を使用し、「時間の構造化」を図り、生徒の集中力の持続と回復の手立てとした。

②学習支援ソフト活用による自主学習の推進

個に応じて苦手な部分をいつでも学習できるよう、パソコン室に学習支援ソフト（iプリ）を設置し、生徒が年間を通して、昼休み・放課後に活用した。テスト前後には生徒が学習プリントを作成し利用するなど、効果的な活用ができた。



(2) 鍛えよう 心と体

①生徒主体の行事運営

行事の運営を生徒主体で行うことによって、生徒の自己肯定感と責任感を高めた。特に、本校の特徴である5月の体育大会実施に向けて、2月から内容の検討を行い、4月の練習時からは生徒が前に立ち、生徒が指示をすることによって、生徒同士のつながりが広まった。また、合唱コンクールや学習発表会での劇や発表など、各学年で創意工夫を凝らした作品を創り上げた。自分たちで大きな行事を作り上げ、成功に導いたことが生徒の自信となり、その後の学校生活の活性化につながっている。



②野外宿泊学習

5月23日～25日の「野外宿泊学習」で、1年生は小佐々海洋センターでシーカヤック体験をした。風向きを考えながらのオール操作、お互いの声かけなど、周りの人と協調、協力して慎重に船を進めていた。体験を通じて仲間と触れ合う貴重な時間を過ごすことができた。



③いのちを見つめる日教育講演会

吉井地区三校小中連携、地域連携の行事として、6月1日の「いのちを見つめる日」にあわせ、吉井北小学校、吉井南小学校、吉井中学校の3校と、吉井地区学校支援ボランティア等の共催による「いのちを見つめる日教育講演会」を実施した。ピアニストの田辺誠さんの講演とピアノの演奏は、生徒の心に深い感銘を与えるものだった。



④「法テラス授業」の実施と心の教育

12月に外部講師（弁護士）を招き、「法テラス授業」の講話により、生徒たちに「人権意識」を高めることにつながった。



⑤「性教育講演会」（2年生：7月）、「薬物乱用防止教室」（全学年：12月）、「メディア安全教育講演会」（全学年：1月）を実施することにより、健康で安全に生活するためのスキルを身につける講演会を実施した。

⑥地域に目を向けた行事への参加

○音楽部の演奏による各種催しへの参加

7月：「茶話の里」誕生会

8月：吉井町夏祭り

10月：「茶話の里」秋祭り

11月：吉井地区文化祭

春日神社おくんち

などに参加し、フルートや箏の演奏で、子どもからお年寄りまで幅広い世代に音楽を楽しんでもらう取組を行った。



○吉井町内駅伝大会への参加：12月9日（日）に男子1チーム、女子3チームと3校合同職員チーム1チームの合計5チームが参加した。

(3) 語ろう 夢や志

①職業講話（1年生）

佐世保市木風町にある鳥カフェ「ふわふわインコ」のオーナーによる職業講話を実施した。鳥のえさやり体験や触れ合い体験もできた。生き物に関わる仕事に就きたいという感想を書いている生徒もあり、将来の職業を考える貴重な時間となった。



②修学旅行（2年生）

修学旅行の2日目、自主研修の際、外国人に英語でインタビューをする活動を行った。インタビューに応じていただいた外国人の方々に、そのお礼として、佐世保の観光地を絵葉書にしたセットを差し上げ、大変喜んでいただいた。インタビューの内容は、地元のPRと、どの国から来日されたのか、また、京都を観光地に選んだ理由を聞いたりしたものだった。事前に練習したこともあり、どの班もスムーズに取り組むことができた。英会話でのコミュニケーションをとることは、生徒にとって自信につながった。



③職場体験学習（3年生）

9月12日（水）～14日（金）の3日間の職場体験を実施した。職場体験では、生徒に希望をとり、吉井町内外20事業所において行った。活動を通して、勤労の大変さや責任の重さ、礼儀作法の大切さなどを学ぶことで、今後の進路選択への意識が高まった。



④福祉体験学習（2年生）

佐世保市社会福祉協議会の協力のもと、福祉講話と疑似体験を実施した。車椅子体験やアイマスク体験などを通して、共生社会の一員としてあり方について学ぶことができた。



⑤福祉体験学習（3年生）

佐世保市社会福祉協議会の御協力により、視覚障がい者である大津かほるさんの講話と盲導犬ヴィーノとふれあい、アイマスクを用いての体験を行った。視覚障がい者の日常の生活やその苦勞を知ることによって、障がい者への声かけや接し方を学ぶことができた。



4 成 果

- 『伸ばそう 学力』については、学習に対する生徒の意識が変容し、iプリの使用頻度も増えてきた。また、職員の授業改善に対する意識も向上してきており、授業の雰囲気も落ち着いてきた中に学びの姿勢が整っている。
- 『鍛えよう 心と体』については、生徒を主体とした行事の計画と、各種講演会の開催による社会性の醸成によって、生徒の自己肯定感が高まった。学校評価における「行事への協力・積極性」では、生徒の平均が3.6、教員の平均が3.5と高い評価を得た。
- 『語ろう 夢や志』については、「職場体験学習」「福祉体験学習」「職業講話」等の実施により、キャリア教育の大きな柱が明確になり、各学年に応じたキャリア教育の土壌ができた。
- 学校評価アンケートにおいては、「授業がわかりやすい」という項目に対する生徒平均が3.3、教員平均が3.1であり、職員の授業改善に向けた取組の成果が見られた。「将来の生き方について真剣に考えている」生徒平均も3.3で、昨年度と同様である。「人権教育推進」については生徒平均が3.4、教員平均が3.3と高くなっている。

5 今後の課題

本校は、2年間、佐世保市教育委員会指定を受け、「基礎学力の向上を目指した授業のユニバーサルデザイン化」をテーマに授業改善研究に取り組んできた。今後もUD化の授業を行うためには、複数の目によるアセスメントをもとに、通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒を念頭におきながら支援の工夫を行うことが重要である。そのためには、「特色ある学校づくり」と関連させての「授業のUD化」「人的環境のUD化」「教室環境のUD化」を進めていきたい。